

隠岐地区(水産)プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成26年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H26目標	H26実績	達成率
隠岐-1	「隠岐のいわがき」販売強化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・「隠岐のいわがき」の出荷数量は順調に伸び、全体で100万個に迫るまでになり、来年度以降も更なる増加が見込まれている。 ・より一層衛生管理に配慮した「隠岐のいわがき清海」の出荷数量も昨年並みであり、消費者の食の安全・安心への関心は引き続き高い。衛生管理の徹底の継続が必要である。 ・イワガキ養殖による所得の維持・増大のため、消費者ニーズの把握に努める等、より一層の販売努力が必要である。 ・魚類による食害や過密養殖による成長不良を原因とする生産ロスが発生しており、養殖生産の安定化が課題である。 	養殖イワガキの販売個数(万個)	75	92	123%
			養殖イワガキの販売金額(億円)	1.53	2.17	142%
隠岐-2	漁業の担い手育成・確保プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・自営漁業就業者については、概ね計画どおりに確保されてきている。 ・雇われ漁業就業者の確保についても、新規就業者の加入が見られている。 ・一方、特に自営漁業においては、就業した後に厳しい漁家経営を強いられている場合が多く、漁業所得が向上し定着につながる取組が必要である。 ・今後、新規就業者の定着を進めるため、十分な収入が得られる漁業就業モデルの構築や支援制度の整備等が必要である。 	新規自営漁業就業者数(計画期間中)(人)	5	7	140%
隠岐-3	隠岐のさかな消費拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベント等において「隠岐のさかな」を広くPRすることができた。 ・島内での「隠岐のさかな」の消費拡大を目指す動きができており、これを定着させる必要あり。 ・島内の小中学生等を対象とした料理教室の開催や学校給食での地元産水産物の使用などにより、若い世代への魚食普及活動を推進した。 ・消費者等のニーズに合わせ、ライフスタイルの変化に応じたより使いやすい形態の製品や地元産にこだわった製品作りに努めた。隠岐の島町においては公設民営による新たな加工場整備に向けた検討が続けられた。 	新たな加工品開発数(計画期間中)(品)	9	16	178%
			料理教室等の参加人数(計画期間中)(人)	1,500	1,350	90%
隠岐-4	海のゆりかごづくりプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・海士町では海藻センターを拠点に、藻場造成や新たな海藻養殖のための種苗生産とともに増養殖した海藻について、加工品開発のほか、再生可能エネルギー等の非食用への利用等、広く有効活用するための研究、調査を継続している。 ・減少している藻場の復活に向けて、実態調査・造成が取り組まれている。 ・新たな海藻養殖試験を実施するとともに、養殖した海藻を用いた加工品づくりが進められている。 	藻場造成箇所数(計画期間中)(箇所)	3	16	533%
			新たな海藻養殖対象種数(計画期間中)(種類)	3	5	167%